

2019年度適用カリキュラム情報

デイ ブ ロ マ ・ ポ リ シ ー	【知識・技能】	①日本および世界の各地域の文化・歴史・社会・政治・経済などを学び、グローバル社会における多文化理解を身に付けることができる。
	【思考力・判断力・表現力】	②国際社会における文化的対立の構造を理解することができる。 ③多文化共生社会において求められる実践的な外国語運用能力とコミュニケーション能力を身に付けることができる。
	【主体性・多様性・協働性】	④共生可能な持続的社会的形成のための思考力・判断力・行動力を身に付けることができる。 ⑤多文化共生社会における豊かな許容性を理解し、共働の精神をもってその実現へ向けての考えを整理し、他者に対して説明することができる。
		⑥国際社会の一員として、国際理解学習を進め、国際交流活動に参画することができる。 ⑦「敬神愛人」の精神が国際社会・多文化共生社会の中で重要な実践課題であることを自覚し、地域との協働や他者理解の必要性を学ぶことができる。

分野	新科目名	単位数		科目概要(*1)	カリキュラム・マップ							AL(*2)	
		必	選		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦		
	基礎英語1	1	1	高校までに学んできた英語の語彙・文法等の知識を確認・定着させ、大学における学びの基礎となる英語運用能力を身に付けるとともに、各種検定への対応を視野に入れた指導を行う。			◎				△		○
	基礎英語2	1	1	「基礎英語1」で学んだ内容をベースに、英語の語彙・文法等の知識を拡充させ、大学における学びの基礎となる英語運用能力を身につけるとともに、各種検定への対応を視野に入れた指導を行う。			◎				△		○
	英語表現1	1	1	英語での日常的なやり取りに必要な表現と方略を身につけることに加え、ある課題に対しての自身の意見を口頭および文書で発表する練習を通し、英語を用いての発信力を身につける。			◎	○			△		◎
	英語表現2	1	1	英語での日常的なやり取りに必要な表現と方略を充実させるとともに、プレゼンテーションやディスカッションなどの発展的な活動の練習を通し、英語を用いての発信力を伸ばす。			◎	○			△		◎
	英語演習A (英語で学ぶ日本の文化)		1	1	海外の文化と比較しながら英語を用いて日本の文化について学び、自らの文化を客観的に理解するとともに、その内容を英語で発信する力を身につけ、異文化理解や異文化間交流の礎を築く。	○		◎				○	◎
	英語演習B (英語で学ぶ世界の文化)		1	1	世界の諸文化の中からいくつかを取り上げ、それらを英語の資料を用いて理解することで、国際理解のための英語力を高めるとともに、文化の多様性を受け入れる素地を養う。	○		◎				○	◎
	英語演習C (英語で学ぶ異文化理解)		1	1	英語の資料を用いて、異文化理解の必要性、世界に見られる異文化間摩擦、身近な異文化理解などについて理解・考察する機会を与え、多文化共生社会に生きる上での豊かな許容性を育む。	○		◎			○	△	◎
	英語演習D (英語で学ぶ時事問題)		1	1	様々なメディアが発信する記事等の読解およびそれらについての議論を通し、世界で起こっている様々な時事問題について理解し議論するために必要な英語力を養う。	○		◎	○				◎
	英語演習E (英語で学ぶSDGs)		1	2	各種資料の読解や議論などを通し、国連「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された持続可能な開発目標についての理解を深め、持続可能な社会づくりに関わるための英語力を養う。	○		◎	○			△	◎
	英語演習F (英語で学ぶ環境・エネルギー問題)		1	2	これまで人間が工業化の進展・化石燃料の大量消費などにより環境に大きな負荷をかけてきたことを省みながら、環境・エネルギーに関する諸課題について英語を用いて理解・議論する力を養う。	○	○	◎					◎
	英語演習G (英語で学ぶ健康と食糧)		1	2	世界保健機構(WHO)や世界食糧計画(WFP)、その他国際NGOなどの資料を基に、世界の健康・食糧事情を理解するとともに、課題解決に向けた提案を英語で行う力を養う。	○		◎	○				◎
	英語演習H (英語で学ぶ国際連合)		1	2	国際連合のさまざまな役割や組織について学ぶとともに、具体的な活動に触れながら、国際連合についての理解を深める。あわせて、国連英検C級以上の取得を目指す。	○		◎	○				◎
	英語演習I (英語で学ぶ差別問題)		1	2	人種・性・宗教・障がいなどにより生じているさまざまな差別の問題について、各種資料の読解を通して理解を深めるとともに、その解決・改善に向けた提案を英語で行う力を養う。		○	◎			○		◎
	英語演習J (英語で学ぶ平和)		1	2	多様な資料を通し、平和を希求する人々や組織の活動、あるいは平和を妨げる様々な要因についての理解を深め、平和な世界の実現に向けて私たちが取るべき手段について考察する。	○	○	◎					◎
	英語演習K (英語で学ぶ世界遺産)		1	2	主な世界遺産の成り立ちや、ユネスコを中心とする世界遺産保護活動の実際、世界遺産が抱える諸課題などについて資料を用いて理解するとともに、課題解決に向けた考察を行う。	○		◎	○				◎
	英語演習L (英語で学ぶ教育問題)		1	2	世界における教育の現状を把握したうえで、世界中の人々が質の高い教育を受けられるようにするためにどうすべきかを、さまざまな資料の理解および考察を通して議論する力を養う。			◎	○			○	◎
	入門ドイツ語1		1	1	「基礎ドイツ語」となると、ドイツ語を読み書き話すために欠くことのできない基本的な文法知識を学ぶ。また学習を通して、ものごとを正確かつ精密に考える力を養う。	○	○	◎			○	△	◎
	入門ドイツ語2		1	1	入門ドイツ語1を継続し、過去や未来の表現、受動態、関係代名詞など、さらに進んだ文法知識を習得する。	○	○	◎			○	△	◎
	基礎ドイツ語1		1	1	「入門ドイツ語」で学ぶ基本的な文法知識を反復練習しつつ、会話を中心としたドイツ語表現力を身につける。また言葉を通じた異文化との出会いを体験していく。	○	○	◎			○	△	◎
	基礎ドイツ語2		1	1	「基礎ドイツ語1」を継続し、さらに進んだ表現形式を学びながら、異文化理解を深めていく。	○	○	◎			○	△	◎
	発展ドイツ語1		1	2	「応用ドイツ語」となると、一年次で学んだ基礎知識を確認しながら、ドイツ語によるコミュニケーション能力に磨きをかける。あわせて、ドイツ文化の特性も理解していく。	○	○	◎			○	△	◎

2019年度適用カリキュラム情報

ディプロマ・ポリシー	【知識・技能】	①日本および世界の各地域の文化・歴史・社会・政治・経済などを学び、グローバル社会における多文化理解を身に付けることができる。
	【思考力・判断力・表現力】	②国際社会における文化的対立の構造を理解することができる。 ③多文化共生社会において求められる実践的な外国語運用能力とコミュニケーション能力を身に付けることができる。
	【主体性・多様性・協働性】	④共生可能な持続的社会的形成のための思考力・判断力・行動力を身に付けることができる。 ⑤多文化共生社会における豊かな許容性を理解し、共働の精神をもってその実現へ向けての考えを整理し、他者に対して説明することができる。
		⑥国際社会の一員として、国際理解学習を進め、国際交流活動に参画することができる。 ⑦「敬神愛人」の精神が国際社会・多文化共生社会の中で重要な実践課題であることを自覚し、地域との協働や他者理解の必要性を学ぶことができる。

分野	新科目名	単位数		科目概要(*1)	カリキュラム・マップ							AL(*2)	
		必	選		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦		
	発展ドイツ語2		1	2	「発展ドイツ語1」を継続し、ドイツの社会や文化への関心を深めていく。	○	○	◎		○	△		◎
	応用ドイツ語1		1	2	「発展ドイツ語」とならんで、初等文法を終えたことを前提に、日常会話に不可欠な表現を確認しながら、さらに進んだ応用力を身につける。あわせて、ドイツ文化への理解も深めていく。	○	○	◎		○	△		◎
	応用ドイツ語2		1	2	「応用ドイツ語1」を継続し、ドイツ語表現の応用に磨きをかけていく。	○	○	◎		○	△		◎
	ドイツ語で学ぶドイツ文化		2	3	ドイツ語既習者を前提に、ドイツ語で書かれたテキストを読みながら、読解力を養いつつ、ドイツ文化への理解を深めていく。	○	○	◎		○	△		◎
	ドイツ語で学ぶドイツ事情		2	3	ドイツ語既習者を前提に、ドイツ語で書かれたテキストを読みながら、ヨーロッパの中心に位置するドイツの歴史を含め、現代ドイツの様々な事情を学ぶ。	○	○	◎		○	△		◎
	入門フランス語1		1	1	英語全盛の時代であるが、国際機関における公用語として第二の勢力を維持し続けるフランス語に触れておく意義は大きい。本科ではフランス語の基礎を、綴りの発音から徹底的に学ぶ。			◎	○	◎	○		
	入門フランス語2		1	1	「基礎フランス語1」に続く科目である。本科では特に動詞の活用に入力を入れたい。フランス語の動詞活用の難しさは定評があるが、これを越えなければフランス語習得は叶わない。			◎	○	◎	○		
	基礎フランス語1		1	1	「入門フランス語」と組みになって、1年次終了時に実用フランス語技能検定試験5級程度(学習50時間以上)の実力をつけたい。入門で学んだ基礎知識をさらに定着させ応用する。			◎	○	◎	○		
	基礎フランス語2		1	1	「基礎フランス語1」に続く科目である。フランス語検定試験5級の実力をめざし、知識に磨きをかける。			◎	○	◎	○		
	発展フランス語1		1	2	本授業は2年次のフランス語科目である。基本的文法事項の知識を完全なものとする。2年次終了時点でフランス語検定試験4級、さらには同3級の実力獲得を目指したい。			◎	○	◎	○		
	発展フランス語2		1	2	本授業は「発展フランス語1」に続く科目である。引き続きフランス語検定試験4級の実力達成を目標とする。			◎	○	◎	○		
	応用フランス語1		1	2	本授業では、「発展フランス語」と組みになって、読解、作文、会話など、総合的なフランス語運用能力を身につける。目標はやはり、フランス語検定試験3・4級の実力獲得である。			◎	○	◎	○		
	応用フランス語2		1	2	本授業は「応用フランス語1」に続く科目である。フランス語の理解力(読む、聞く)だけでなく、自ら使いこなす力(書く、話す)の基礎を固めてゆく。			◎	○	◎	○		
	フランス語で学ぶフランス文化		2	3	本授業は、2年次までのフランス語学習を終えてさらにフランスに関する知識を深めたい者のための科目である。実力的には、実用フランス語技能検定試験3級レベルを目指したい。	○		◎	○	◎	○		
	フランス語で学ぶフランス事情		2	3	本授業も「フランス語で学ぶフランス文化」と同趣旨の科目である。フランス語を通して、フランスについてより幅広い教養を身につける。並んで、フランス語能力のより一層の向上も目指す。	○		◎	○	◎	○		
	入門スペイン語1		1	1	本授業はスペイン語の基礎を習得するクラスであり、スペイン語の発音に慣れ、基本的な挨拶表現と現在時制を用いた自己表現ができるようになることを目的とする。			◎	○	◎	○		
	入門スペイン語2		1	1	本授業は、「入門スペイン語1」に続き、スペイン語の基礎を習得するクラスであり、スペイン語の発音に慣れ、現在時制を用いた基本的な自己表現ができるようになることを目的とする。			◎	○	◎	○		
	基礎スペイン語1		1	1	入門スペイン語と組みになって、1年次終了時にスペイン語検定試験6級程度の実力をつけることを目標とする。入門で学んだ基礎知識をさらに定着させ応用する。			◎	○	◎	○		
	基礎スペイン語2		1	1	「基礎スペイン語1」に続く科目である。スペイン語検定試験6級の実力を目指し、知識に磨きをかける。			◎	○	◎	○		
	発展スペイン語1		1	2	本授業は2年次のフランス語科目である。基本的文法事項の知識を完全なものとする。2年次終了時点でフランス語検定試験4級、さらには同3級の実力獲得を目指したい。			◎	○	◎	○		
	発展スペイン語2		1	2	本授業は「発展フランス語1」に続く科目である。引き続きフランス語検定試験4級の実力達成を目標とする。			◎	○	◎	○		

2019年度適用カリキュラム情報

デイ プロ マ・ ポリ シー	【知識・技能】	①日本および世界の各地域の文化・歴史・社会・政治・経済などを学び、グローバル社会における多文化理解を身に付けることができる。
	【思考力・判断力・表現力】	②国際社会における文化的対立の構造を理解することができる。 ③多文化共生社会において求められる実践的な外国語運用能力とコミュニケーション能力を身に付けることができる。
	【主体性・多様性・協働性】	④共生可能な持続的社会的形成のための思考力・判断力・行動力を身に付けることができる。 ⑤多文化共生社会における豊かな許容性を理解し、共働の精神をもってその実現へ向けての考えを整理し、他者に対して説明することができる。
		⑥国際社会の一員として、国際理解学習を進め、国際交流活動に参画することができる。 ⑦「敬神愛人」の精神が国際社会・多文化共生社会の中で重要な実践課題であることを自覚し、地域との協働や他者理解の必要性を学ぶことができる。

分野	新科目名	単位数		科目概要(*1)	カリキュラム・マップ							AL(*2)		
		必	選		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦			
学 部 共 通 科 目	応用スペイン語1		1	2	本授業では、「発展フランス語」と組みになって、読解、作文、会話など、総合的なフランス語運用能力を身に付ける。目標はやはり、フランス語検定試験3・4級の実力獲得である。			◎	○	◎	○			
	応用スペイン語2		1	2	本授業は「応用フランス語1」に続く科目である。フランス語の理解力(読む、聞く)だけでなく、自ら使いこなす力(書く、話す)の基礎を固めてゆく。			◎	○	◎	○			
	スペイン語で学ぶスペイン文化		2	3	本授業は、2年次までのスペイン語学習を終えてさらに上を目指したい者のための科目である。語学力の向上に加え、スペイン文化についても教養を深める。	○		◎	○	◎	○			
	スペイン語で学ぶスペイン事情		2	3	本授業では、視聴覚教材なども用い、現代スペイン事情を通して、しっかりした基本的なスペイン語能力にさらに磨きかける、あわせ、スペインをめぐる国際問題についても考えたい。	○		◎	○	◎	○			
	入門中国語1		1	1	中国語の4つの方面(聞く・話す・読む・書く)の基礎を身に付けるため、発音・文字表記・基礎的な語彙・基礎的な文型や日常よく使う文句、などを学習し、最低限のコミュニケーション能力の習得を目標とする。	△		◎						
	入門中国語2		1	1	中国語の4つの方面(聞く・話す・読む・書く)の基礎を身に付けるため、発音・文字表記・基礎的な語彙・基礎的な文型や日常よく使う文句、などを学習し、最低限のコミュニケーション能力の習得を目標とする。	△		◎						
	基礎中国語1		1	1	中国語の4つの方面(聞く・話す・読む・書く)の基礎を身に付けるため、発音・文字表記・基礎的な語彙・基礎的な文型や日常よく使う文句、などを学習し、最低限のコミュニケーション能力の習得を目標とする。	△		◎						
	基礎中国語2		1	1	中国語の4つの方面(聞く・話す・読む・書く)の基礎を身に付けるため、発音・文字表記・基礎的な語彙・基礎的な文型や日常よく使う文句、などを学習し、最低限のコミュニケーション能力の習得を目標とする。	△		◎						
	発展中国語1		1	2	言語の基本四技能を更に伸ばすとともに、中国語を使用する可能性の有る様々な機会(日常的会話、接客、その他)に対応できる力を付ける。「応用中国語1」と異なる教材を使うことで、多様な場面設定で学習する。	△		◎						
	発展中国語2		1	2	第2外国語としての中級レベルの実力を総合的に伸ばす。会話文を聞いたり理解する力を伸ばすとともに、基本的な文を作る力や話す力を養成する。「応用中国語2」と異なる教材を使うことで、語彙や解釈力の幅を広げる。	△		◎						
	応用中国語1		1	2	言語の基本四技能を更に伸ばすとともに、中国語を使用する可能性の有る様々な機会(日常的会話、接客、その他)に対応できる力を付ける。「発展中国語1」と異なる教材を使うことで、多様な場面設定で学習する。	△		◎						
	応用中国語2		1	2	第2外国語としての中級レベルの実力を総合的に伸ばす。会話文を聞いたり理解する力を伸ばすとともに、基本的な文を作る力や話す力を養成する。「発展中国語2」と異なる教材を使うことで、語彙や解釈力の幅を広げる。	△		◎						
	おもてなし中国語		2	3	日本における各シチュエーション(空港・駅、ホテル・旅館、デパート・コンビニなど各種商店、観光地、医療機関などで、中国語圏からの訪日客をもてなすことに特化した、中国語の語彙や表現を身に付ける。	△		◎						
	実践中国語		2	3	様々な機会に実践的に使える中国語力を養う。1、2年次の基礎の上に立って、広い場面における相手の発話を聞いて理解し、実際の応答ができることを目指す。また、書かれたものを理解し和訳できる力を伸ばす。	△		◎	△					
コミュニケーション中国語1		2	1	中国語の4つの方面(聞く・話す・読む・書く)の基礎を身に付けるのと並行して、相手について尋ね、自分について話す、というコミュニケーション力の向上を重視する。そのために、口頭練習を多く取り入れる。	△		◎						△	
コミュニケーション中国語2		2	1	中国語の4つの方面(聞く・話す・読む・書く)の基礎を身に付けるのと並行して、相手について尋ね、自分について話す、というコミュニケーション力の向上を重視する。そのために、口頭練習を多く取り入れる。	△		◎						△	

2019年度適用カリキュラム情報

ディプロマ・ポリシー	【知識・技能】	①日本および世界の各地域の文化・歴史・社会・政治・経済などを学び、グローバル社会における多文化理解を身に付けることができる。
	【思考力・判断力・表現力】	②国際社会における文化的対立の構造を理解することができる。 ③多文化共生社会において求められる実践的な外国語運用能力とコミュニケーション能力を身に付けることができる。
	【主体性・多様性・協働性】	④共生可能な持続的社会的形成のための思考力・判断力・行動力を身に付けることができる。 ⑤多文化共生社会における豊かな許容性を理解し、共働の精神をもってその実現へ向けての考えを整理し、他者に対して説明することができる。
		⑥国際社会の一員として、国際理解学習を進め、国際交流活動に参画することができる。 ⑦「敬神愛人」の精神が国際社会・多文化共生社会の中で重要な実践課題であることを自覚し、地域との協働や他者理解の必要性を学ぶことができる。

分野	新科目名	単位数	配当年次	科目概要(*1)	カリキュラム・マップ							AL(*2)	
					①	②	③	④	⑤	⑥	⑦		
	映画で見る中国語	2	2	中国語字幕の映画を中国語音声聞きながら見るにより、どのような場面でのような表現が使われるかを知り、音声面でも理解できるようにする。またよく使われる語彙や表現については、和訳できるようにする。	△		◎						
	生活中国語	2	2	グローバル化した世界において実践的な外国語運用能力とコミュニケーション能力の重要性が増す中、生活において使う中国語を学び、実際にそれを使いこなせるようになることを目指す。	△		◎						
	日常中国語	2	2	グローバル化した世界において実践的な外国語運用能力とコミュニケーション能力の重要性が増す中、ふだんよく使う中国語を学び、実際にそれを使いこなせるようになることを目指す。	△		◎						
	中国語の検定にチャレンジ	2	3	中国語の検定試験に対応できる力を付ける。各検定試験で要求される語彙・文型等の範囲に対して、これまでの学習で不足の部分を補いながら学習し、また、実際に出題された問題を解くことで、問題対応力を養成する。			◎						
	韓国語1	2	1	ハングルの創製原理と歴史を考察し、韓国語の言語的特徴と構造を日本語と比較しながら学習する。	○	○	◎		○	△			◎
	韓国語2	2	1	発音規則に沿った文章の読み方と綴り方の練習と、助詞の使い方や用言の語尾活用の基礎、さらに叙法や待遇法などの基礎文法を学習する。	○	○	◎		○	△			◎
	フィリピン語と日常世界1	2	1	フィリピンは日本に最も近い東南アジアの国である。日本で暮らす外国人のうち、4番目に数が多い。身近なフィリピンの国語・フィリピン語を学ぶ。フィリピンの概要、言語事情に関して、2回授業を行い、フィリピン語の位置づけを理解してもらった後、言葉の学習に入る。教科書を使用し、初級程度の語学力を習得させる。			△	△		△			△
	フィリピン語と日常世界2	2	2	フィリピンは日本に最も近い東南アジアの国である。日本で暮らす外国人のうち、4番目に数が多いのがフィリピン人である。このように身近なフィリピンの国語・フィリピン語を学ぶ。フィリピン語と日常世界1を履修したものを対象とする。言葉の学習に入る。教科書を使用し、中級程度の語学力を習得させる。	○		○					○	
	基礎インドネシア語	2	1	マレー社会(東南アジア島嶼部)の交易語であったインドネシア語は、時制の変化や格(主格・所有格・目的格)の区別がないなど、文法が比較的簡単であり、アルファベット表記、発音のしやすさなど、短期間でマスターしやすい言語である。基礎的な文法を学び、旅行でつかえるインドネシア語を身に付ける。			◎					○	◎
	検定インドネシア語	2	2	インドネシアに進出する愛知県の企業は約200社、愛知県で暮らすインドネシア人は約5500人。「基礎インドネシア語」で習得したインドネシア語を活かせる場は少なくない。単にインドネシア語を習得するだけではなく、インドネシア語技能検定試験(仕事でつかえるレベルはC級)に合格して、将来のキャリアにつなげたい。			◎					○	◎
	ことばと音声	2	2	日本語や外国語など様々な言語の音声を、聴き、発音し、音声記号で書き、音声記号を再生したり、自分や人の声を音声分析ソフトで表示し、聴覚的な違いが視覚的にどう見えるか、実習を通して言語音声について理解する。	○		◎		△	△			△
	コンピュータ技法1	2	2	WordとExcelについて、在学中の学習や卒業論文作成に役立ち、社会で要求される技能や関連の知識を身に付ける。また当学部のグローバルな学習内容に対応できるよう、Windows上での各言語の入力方法や文字表示についても学習する。			○						
	コンピュータ技法2	2	2	PowerPointを使ったプレゼンテーションの作成と実習を行うが、まとめ方や提示方法・効果的な表現方法等についての知識を習得する。併せて、情報を収集して使用する際に必要な著作権や情報倫理についても知識を深める。			○						
	TOEIC英語基礎1	1	1	英語の基礎的な語彙・文法等の知識を再確認しながら、社会人の英語力評価に多く用いられるTOEICの問題に対応するための英語基礎力を身に付ける。			◎						○
	TOEIC英語基礎2	1	1	TOEICでの500点の取得を目標として、実際の出題形式に即した教材を用い、各パートの問題の特徴をつかみながら、総合的な英語基礎力を身に付ける。			◎						○
	TOEIC英語実践1	1	2	すでにTOEIC500点程度の英語力を持つ学生を主な対象とし、実際の出題形式に即した教材を用い、各パートの問題に対応できる総合的な英語基礎力を身に付ける。			◎						○

2019年度適用カリキュラム情報

デイ プロ マ・ ポリ シー	【知識・技能】	①日本および世界の各地域の文化・歴史・社会・政治・経済などを学び、グローバル社会における多文化理解を身に付けることができる。
	【思考力・判断力・表現力】	②国際社会における文化的対立の構造を理解することができる。 ③多文化共生社会において求められる実践的な外国語運用能力とコミュニケーション能力を身に付けることができる。
	【主体性・多様性・協働性】	④共生可能な持続的社会的形成のための思考力・判断力・行動力を身に付けることができる。 ⑤多文化共生社会における豊かな許容性を理解し、共働の精神をもってその実現へ向けての考えを整理し、他者に対して説明することができる。
		⑥国際社会の一員として、国際理解学習を進め、国際交流活動に参画することができる。 ⑦「敬神愛人」の精神が国際社会・多文化共生社会の中で重要な実践課題であることを自覚し、地域との協働や他者理解の必要性を学ぶことができる。

分野	新科目名	単位数		科目概要(*1)	カリキュラム・マップ							AL(*2)		
		必	選		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦			
	TOEIC英語実践2		1	2	すでにTOEIC500点程度の英語力を持つ学生を主な対象とし、TOEICでの700点の取得を目標として、問題演習を通して各パートの問題に対応できる総合的な英語基礎力を身につける。			◎						○
	日本語教授法1		2	2	日本語の音声、聴き、発音し、さらに各技法を習得することで、日本語の言語特性について理解する。また、そのような指導法を的確に実践できるように実習を通して習得することができる			○	○	○	◎			△
	日本語教授法2		2	2	教授法1で学習した内容をさらに高度に実践できるように「読む・聞く・書く・話す」ための技術を高め、日本語の初学者指導に対応する技法を学ぶことができる			○	○	○	◎			△
	国際文化論	2		1	グローバル時代の国際文化の概念とあり方を考察するとともに、具体的な事例を紹介しつつ、文化の国際性という問題に言及する。諸地域・諸国の文化的特質を論じ、国際的な文化への理解を深める。	◎	○		○	○	○			
	キリスト教文化論1		2	2	人類の歴史で、音楽と宗教は密接な関係にある。聖書の内容を伝えるために、音楽がどのように用いられてきたか、教会音楽の役割や機能について学ぶ。	◎					△		○	
	キリスト教文化論2		2	2	キリスト教芸術の絵画に表された主題や図像について、聖書から学び、作品表現の様式的な変化を生じさせた西洋文化の思想背景や、その歴史的要因について学ぶ。	◎					△		○	
	宗教人類学		2	1	世界各地のケガレ観念・シャーマニズム・葬送など宗教的実践を事例にとりあげ、人類が自分たちが生きている世界をどのように想像しそれに働きかけるかを理解する。	○	△			○				
	グローバル社会文化論		2	1	文化は本来的に境界を超えることでその国際性を保持し、国境や民族や宗教を超えてグローバルな文化世界を形成してきた。現代社会の文化交流と文化変容、そして文化創造の在り方を学ぶ。	◎	◎		○	◎	◎	△		

2019年度適用カリキュラム情報

ディプロマ・ポリシー	【知識・技能】	①日本および世界の各地域の文化・歴史・社会・政治・経済などを学び、グローバル社会における多文化理解を身に付けることができる。
	【思考力・判断力・表現力】	②国際社会における文化的対立の構造を理解することができる。 ③多文化共生社会において求められる実践的な外国語運用能力とコミュニケーション能力を身に付けることができる。
	【主体性・多様性・協働性】	④共生可能な持続的社会的形成のための思考力・判断力・行動力を身に付けることができる。 ⑤多文化共生社会における豊かな許容性を理解し、共働の精神をもってその実現へ向けての考えを整理し、他者に対して説明することができる。 ⑥国際社会の一員として、国際理解学習を進め、国際交流活動に参画することができる。 ⑦「敬神愛人」の精神が国際社会・多文化共生社会の中で重要な実践課題であることを自覚し、地域との協働や他者理解の必要性を学ぶことができる。

分野	新科目名	単位数		科目概要(*1)	カリキュラム・マップ							AL(*2)			
		必	選		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦				
	日本対外関係史		2	1	古代から現代にかけての日本の歴史と文化が、周辺アジア諸国・諸地域および世界の諸国・諸地域との関わりの中で形成されてきたことを理解し、その関係性を尊重する精神を培う。	◎	○		○	○	◎			△	
	日本文化論		2	1	日本の文化について、その成立や歴史的な背景、国内の地域文化の比較、外国人から見た日本文化などの観点から日本文化の特質に多角的にアプローチし、理解を深める。	◎	○		○	○					
	比較宗教論		2	2	神道、仏教、儒教、道教、民俗宗教、キリスト教を取り上げ、比較宗教の立場からグローバル社会における日本の宗教について学ぶ。	◎				△		○			
	宗教と平和		2	2	平和を求めるはずの宗教同士がなぜ戦うのか。グローバル社会におけるテロや戦争について、宗教の視点から、平和思想について学ぶ。		◎			△		○			
	国際環境論		2	2	産業革命以降の経済的発展と人口の急激な増加は、複雑で多様な世界における地球環境問題として人類のあり方に再考を迫っている。そのような地球環境の現状と変動のプロセスを明らかにする。				◎		△	△			
学科基幹科目	異文化コミュニケーション論		2	2	文化とコミュニケーション、特に、異文化間関係に及ぼすコミュニケーションの要素に焦点を当てる。また、異文化間コミュニケーションの原則を発展応用させ、英語の談話能力を強化をさせることが出来る。	○	△	◎							
	比較文化・社会論1		2	2	ヨーロッパの文化・社会と日本の文化・社会のあり方を比較考察する。異文化に向き合い、自文化を再認識する過程で批判的かつ複眼的な世界観を学ぶ。	◎	◎		○	○	○	△			
	比較文化・社会論2		2	2	本科目では、西洋社会と日本社会の表層的な比較などはしない。テーマは、今日世界を席巻している西洋近代科学文明の淵源と特質を探ることである。ここにこそ本質的比較論がある。	◎	○		○						
	多文化共生社会論		2	2	1970年代後半から日本に移住し、生活する外国人が増え、現在、その数は250万を超えた。外国人居住者の増加に伴い、日本社会は多文化的な社会となった。本講義では多文化社会の成立経緯、現状、多文化共生の理念に基づく施策、諸団体の取り組みを取り上げ、考察する。	○			○			○			
	情報文化論		2	2	本講義では、産業社会から情報社会への移行にともなって発生したさまざまな文化現象を取り上げ、それらの特徴について、各時代ごとに考察し、理解を深めることを目的とする。				○	△					
	多文化教育論		2	2	今日のグローバル化、ボーダーレス化が進む多文化社会における共生への教育(多文化教育あるいは異文化間教育)の実態と課題について考察し理解を深める。	○			○	○		○	○		
	人間行動論		2	2	本講義では我々の日常生活にみられるありふれた行動を取り上げ、それらがどのような条件によって引き起こされるのかについて考察する。また、人間の行動の実証的な研究方法についても解説する。				○	○					
	比較認知科学		2	2	本講義では、多くの動物種を対象に行われてきたフィールド研究や学習実験を紹介し、種間にみられる認知機能の質的・量的な差について、生息環境への適応の観点から考察する。				○	△					
比較行動学		2	2	本講義では、ヒトの社会をヒト以外の動物の社会と比較することで、他の動物との共通点やヒトの独自性についての理解を深めると同時に、進化論的なものの見方が出来るようになることを目的とする。				○	○						
グローバル	英米文学概論		2	2	イギリスとアメリカの文学作品と作家について、概要を論じるとともに、代表的な作品や作家についても取り上げて論じる。また、国際的視野から見たイギリス文学とアメリカ文学のそれぞれの特徴についても考察する。	○		△		○					
	英米文学史		2	2	イギリス文学史とアメリカ文学史について、黎明期から現代までの、歴史の変遷や社会的背景の中での文学の変化の流れについて、入門的な切り口から分かり易く論じる。	○		△		○					
	欧米文化総論		2	2	ヨーロッパの多様な文化を貫く原理と地域的諸問題を紹介し、その特質を考察する。とりわけ中欧・東欧の歴史文化を学び、現代のEU問題の背景を探り多文化共生の可能性を考える。	◎	◎		○	○	○	△			
	欧米地域文化論A		2	1	ヨーロッパ思想の内、本科目では「心身論」を取り上げる。意識とは、精神とは何かを考えるこのテーマは、今日のAI(人工知能)論争にもつながる、人類普遍の古くて新しい問題である。				○	○					
	欧米地域文化論B		2	1	ドイツの文豪ゲーテの代表作『ファウスト』を基にして、ヨーロッパ文芸の根本的理念を学ぶ。とりわけ「悪魔との契約」を基に展開される人間ドラマの意義を追究する。		○	△	◎	○					
	欧米地域文化論C		2	1	ヨーロッパの文学および芸術におけるゲーテの『ファウスト』の意義を学ぶ。本作に展開される壮大な世界を探りながら、ヨーロッパ思想史を概観し、人間自我の問題を追究する。		○	△	◎	○					

2019年度適用カリキュラム情報

ディプロマ・ポリシー	【知識・技能】	①日本および世界の各地域の文化・歴史・社会・政治・経済などを学び、グローバル社会における多文化理解を身に付けることができる。
	【思考力・判断力・表現力】	②国際社会における文化的対立の構造を理解することができる。 ③多文化共生社会において求められる実践的な外国語運用能力とコミュニケーション能力を身に付けることができる。
	【主体性・多様性・協働性】	④共生可能な持続的社会的形成のための思考力・判断力・行動力を身に付けることができる。 ⑤多文化共生社会における豊かな許容性を理解し、共働の精神をもってその実現へ向けての考えを整理し、他者に対して説明することができる。 ⑥国際社会の一員として、国際理解学習を進め、国際交流活動に参画することができる。 ⑦「敬神愛人」の精神が国際社会・多文化共生社会の中で重要な実践課題であることを自覚し、地域との協働や他者理解の必要性を学ぶことができる。

分野	新科目名	単位数		科目概要(*1)	カリキュラム・マップ							AL(*2)	
		必	選		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦		
文化科目	日欧交流史		2	3	「大航海時代」をリードしたスペイン・ポルトガル、およびその後近代化を推進するオランダ・イギリス・フランス等西欧諸国と、アジアに位置する日本・日本人の、交流と相互影響の歴史を考察・理解する。	◎	○		△	○	○		○
	環太平洋地域研究		2	2	環太平洋地域での民族文化交流のあり方の考察に際し、環太平洋という一つの概念で括られた文化的・経済的・社会的諸関係について考察し、環太平洋地域の理解を進める。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○
	東西交渉史		2	2	グローバル化が進んでいる現代世界の情勢を踏まえて、国家史や民族史の枠組みにとらわれない、繋がりをキーワードとした様々な観点からの世界の歴史について学ぶ。	◎				○	○		
	文化変容論		2	2	個人の移動が、文化にどのような変化を起こすのかを、土着による文化変容を観察することによって考察する。文化変容が、どのような環境で、何を条件におこっていくのかを分析する。	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○
	マイノリティ論		2	2	社会的少数者をマイノリティととらえ、何がマイノリティたらしめるのかについてを、様々な国際的問題において、人権侵害をメルクマールにして考察する。	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	○
	イスラム世界論		2	2	総人口の4分の1以上がイスラム教徒である現代世界の状況を踏まえて、イスラムについての基礎知識や、イスラム世界に含まれる各地域・国家の諸問題について理解を深める。	◎			○	○	○		△

2019年度適用カリキュラム情報

ディプロマ・ポリシー	【知識・技能】	①日本および世界の各地域の文化・歴史・社会・政治・経済などを学び、グローバル社会における多文化理解を身に付けることができる。
	【思考力・判断力・表現力】	②国際社会における文化的対立の構造を理解することができる。 ③多文化共生社会において求められる実践的な外国語運用能力とコミュニケーション能力を身に付けることができる。
	【主体性・多様性・協働性】	④共生可能な持続的社会的形成のための思考力・判断力・行動力を身に付けることができる。 ⑤多文化共生社会における豊かな許容性を理解し、共働の精神をもってその実現へ向けての考えを整理し、他者に対して説明することができる。
		⑥国際社会の一員として、国際理解学習を進め、国際交流活動に参画することができる。 ⑦「敬神愛人」の精神が国際社会・多文化共生社会の中で重要な実践課題であることを自覚し、地域との協働や他者理解の必要性を学ぶことができる。

分野	新科目名	単位数	配当年次	科目概要(*1)	カリキュラム・マップ							AL(*2)	
					①	②	③	④	⑤	⑥	⑦		
日本アジア文化科目	日本の国宝・文化財	2	2	日本の伝統文化の象徴である国宝や重要文化財などについて、その文化的特徴や時代背景を中心に、国際・国内観光の資源としての側面も理解できるように講義を行う。	◎	○		○					
	日本の思想	2	2	近代の西洋思想受容以前の日本の思想について概観するとともに、特に近世の儒学・医学・本草学・天文学・解剖学などの諸学問の発達過程とその内容を理解する。	○			◎	○				○
	日本の民俗学	2	2	日本社会に受け継がれてきた習俗、民間伝承、祭りを例にあげつつ、現代から過去へとさかのぼり、古代日本における「神と自然と人間の交渉」がどのようなものであったかについて理解する。	◎				△				
	日本社会論	2	2	外国人の眼から見た日本にみる日本らしさを分析することにより、日本社会の特異性を明確に認識し、それが、日本社会の何を表象しているのかについて、考察を重ねる。	◎	◎	○	◎	◎	◎	○		◎
	日本地域史論	2	3	「日本史」の内部に時代の特色に対応した弾力的な諸地域を設定し、その枠組みにおける地域の歴史と文化の特色を考察し、国内の各地域史の特性(類似性と異質性)への理解を深める。	◎	○		○	○				○
	日本アジア交流史	2	2	前近代における日本とアジア諸国・諸地域との交流の歴史を、東アジアから東南アジアにまたがる環シナ海文化圏の広がりの中で考察・理解する。	◎	○		△	○	○			○
	現代中国事情	2	2	本講義は、現代中国の社会・政治・経済・文化に関する基礎知識を伝授することを目的とする。経済発展が著しい中国は刻々と変化しているため、最新のデータに目を配り、その変化を象徴するようなトピックスを中心に取り上げる。	◎						○		
	中国文化社会論	2	2	今日、日中間では経済、科学技術、教育、文化など多方面にわたって曾てない人的物的交流が幅広く行われ、ダイナミックな多様性を特色とする中国が再び身近な存在になってきている。講義では、歴史と文化、国家と社会、中央と地方などの中華世界の諸問題を中心に、中国の文化・社会の歴史の変容と現代的課題について考える。	◎	◎	△	◎	◎	◎		△	
	現代アジア文化社会論	2	2	東南アジアのフィリピン共和国について、現代アジアの文化・社会を論じる。フィリピンの概要、民族分布、言葉、教育制度、文化的価値観、社会規範、市場(いちば)、ジェンダー、日本との関係である。歴史的背景にも適宜言及しつつ、現代フィリピンの文化・社会に関して理解を深める(異文化理解)。	○								○
	南アジア文化社会論	2	2	南アジアの文化・社会をヒンドゥー教に着目しつつ学ぶ。その世界観、時間論、神々と祭り、歴史をとりあげ、広くアジアの精神文化の源泉となってきたヒンドゥー教の奥行きと可能性を理解する。	◎					△			
	日中関係論	2	2	日中の相互理解には、両国間の摩擦の原因を深く理解する必要がある。本講義では、中国人知識人の日中関係に関する論考について主に考察し、日本側の代表的な見解と比較対照することで、日中関係を多面的に捉える能力を養成する。		◎		○			○		
	中国社会経済論	2	2	中国は今や世界第2位の経済大国であり、日本あるいは日本経済は中国の存在抜きには立ちいかなくなっている。本講義では、中国経済を単にデータとして捉えるのではなく、中国社会が付与する経済の特色にスポットを当てて考察する。	◎						○		
	日本のポップカルチャーとアジア	2	3	日本のアニメ・マンガ等の大衆文化は海外、特にアジア(とりわけ東アジア・東南アジア)において人気があるが、文化面・産業面におけるアジア諸国と日本の関係を学び、グローバル社会における多文化理解に役立てる。	◎			○	△				
関国際協力	文化交流論	2	2	多様な地域を結ぶ文化の交流を、多文化理解や異文化の尊重という本来の道筋として実現するために必要な文化定義や交流の意味を考察し、多文化交流・接触の実情を学習出来る。	△	△		○	○				
	ジェンダー論	2	2	「男性は外で仕事をし、女性は家庭を守る」といった性別にもとづく役割分業を聞くことがある。ところで、性にもとづく役割分業は、「正しく」「当たり前」のことなのだろうか。ジェンダー論では、学生が専業主婦や家事・育児・介護、生殖医療、グローバル化といった社会現象をジェンダーの視点から解説する。	◎			◎	○				△
	国際人権論	2	2	すべての人々が平等であることが望ましいとされるなか、決して平等な立場に置かれていない人々が数多くいる。国際人権論では、学生が人権保護の歴史とその国内的・国際的な保護のしくみを概観し、つづいて生命・女性・子ども・先住民といったトピックごとに、問題の所在と解決策を具体的に考える。	◎			○	○				△
	国際平和学	2	2	21世紀に入っても世界各地で起きている戦争・紛争・テロはますます激しさを増している。なぜ、このような暴力が起きるのか、具体的な事例をとおして暴力の構造を明らかにする。さらに、戦争・紛争・テロの予防・解決、平和構築のため、どのような努力がなされているのか、その問題点も含めて考える。	◎	○					△		△

2019年度適用カリキュラム情報

ディプロマ・ポリシー	<p>【知識・技能】①日本および世界の各地域の文化・歴史・社会・政治・経済などを学び、グローバル社会における多文化理解を身に付けることができる。</p> <p>②国際社会における文化的対立の構造を理解することができる。</p> <p>③多文化共生社会において求められる実践的な外国語運用能力とコミュニケーション能力を身に付けることができる。</p> <p>【思考力・判断力・表現力】④共生可能な持続的社会的形成のための思考力・判断力・行動力を身に付けることができる。</p> <p>⑤多文化共生社会における豊かな許容性を理解し、共働の精神をもってその実現へ向けての考えを整理し、他者に対して説明することができる。</p> <p>【主体性・多様性・協働性】⑥国際社会の一員として、国際理解学習を進め、国際交流活動に参画することができる。</p> <p>⑦「敬神愛人」の精神が国際社会・多文化共生社会の中で重要な実践課題であることを自覚し、地域との協働や他者理解の必要性を学ぶことができる。</p>
------------	---

分野	新科目名	単位数		科目概要(*1)	カリキュラム・マップ							AL(*2)	
		必	選		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦		
	世界遺産論		2	2	ユネスコは、人類が共有する財産であり未来へと継承されるべきものとして世界遺産を認定し、これらの保全を喚起している。この認識は人間文化の地域性と多様性を考察するに際して不可欠のものである。具体例を紹介し世界遺産を学ぶ。日本と世界の文化・歴史・社会を学び、グローバル社会と多文化を理解する。	◎	○	△	◎	◎	○	△	
	国際文化能力開発1		2	1	国際文化についての理解を深め、それに基づく実践に役立つ知識・技能を身に着ける。	○	○	○	○	○			
	国際文化能力開発2		2	1	国際文化についての理解を深め、それに基づく実践に役立つ知識・技能を身に着ける。	○	○	○	○	○			
	国際文化能力開発3		2	1	国際文化についての理解を深め、それに基づく実践に役立つ知識・技能を身に着ける。	○	○	○	○	○			

